

「不定時法」と「定時法」

Seasonal time system and fixed time system

その昔、狩猟や農耕に根付いた人の生活のリズムにとって、一番重要だったのは昼と夜の区分。日の出と日の入りの時刻は季節によって変動し、昼夜の長さが変わっていきます。その変化していく昼の長さや夜の長さに合わせて、時の進み具合を変えるのが「不定時法」。これに対し、現在のように昼夜問わず、時の進み具合を一定にするのが「定時法」。日時計が使われ始めてから約4千年もの長い間、人類はこの不定時法で生活していました。

時と時計の向き合い方の日欧の違い

Time and timepieces – Approached differently in Japan and Europe

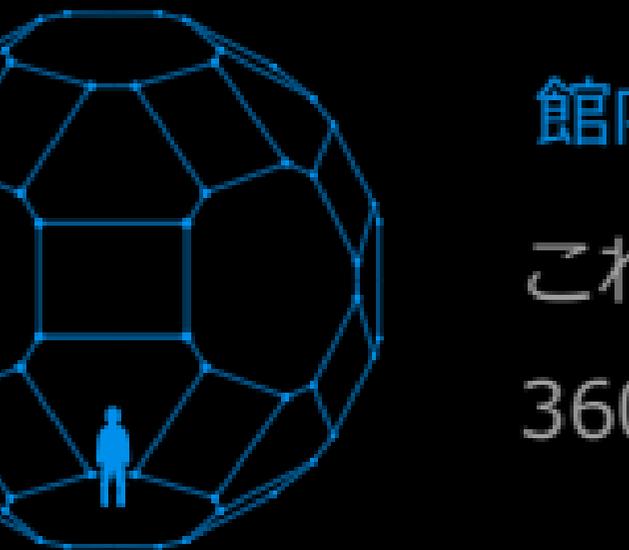
欧州の大航海時代、安全な運航のためには洋上での現在位置を知ることがとても重要でした。緯度は北極星を元に測量できますが、経度を計るには精度の高い定時法の時計が必要だったのです（※別パネルで解説）。1707年、イギリスでは2千名もの犠牲者を出す大きな海難事故が発生しました。これをきっかけに高精度な時計づくりに国をあげて取り組みました。このようにして、欧州では機械式時計の進化で、定時法に基づいた社会改革が進められました。

一方、そのころ江戸時代だった日本では、欧州から入ってきた定時法の時計は、「自分たちの生活にはなじまない」とばかりに、季節によって昼と夜の時間の進み具合を調整し、西洋と異なる独特な「和時計」の考案へと進みました。

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <https://www.tcmmit.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.